

令和4年度（第49回）

岡山市文化奨励賞



文化奨励賞賞牌 大桐國光作

岡山市



学術部門

ふくだ ひろし
福田 宏（貝類学）



生年月日：昭和40年7月18日（57歳）

住 所：岡山市北区津島中

■表彰理由

福田氏は、幼少期から50年以上に渡って、貝類の分類を継続し、これまでに46種の新種を命名してきた。

貝類の分類にとどまらず、移動能力の乏しい貝類が環境の変化に敏感であることから、自然環境との関係が密接であることに着目して、貝類の個々の種と環境条件との関係について研究している。

日本貝類学会論文賞や日本動物学会動物学教育賞を受賞するなど、多数の受賞歴を有している。

これらの研究の成果を活用した生物多様性の保全に向けた観点は、SDGsの一環としても重視されており、自然環境保全に貢献する研究として注目されている。

同氏による発展性の高い研究と成果を評価するとともに、今後の更なる活躍を期待して本賞を贈る。

■略歴

昭和59年3月 山口県立山口高等学校卒業

平成4年3月 東京都立大学理学部生物学科卒業

平成6年3月 東京都立大学大学院理学研究科生物学専攻修士課程

平成10年3月 東京都立大学大学院理学研究科生物学専攻博士課程

平成12年8月 岡山大学農学部助教授

平成17年4月 岡山大学大学院環境学研究科助教授

平成19年4月 岡山大学大学院環境学研究科准教授

平成24年4月 岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授

令和3年4月 岡山大学学術研究院環境生命科学学域（農学系）准教授

芸術部門

まさき かずよし
榎木 和敬 (声楽)

生年月日：昭和43年12月25日(53歳)
住 所：岡山市北区東花尻



■表彰理由

榎木氏は、国立音楽大学音楽学部声楽科を卒業後にヨーロッパに渡り、オペラ「椿姫」に出演してデビューし、イタリアをはじめ、オーストリア、ドイツ、フランス、イギリスなどのヨーロッパ各国でオペラ公演に出演した。

大柄な体躯と類まれなるテクニックにより、身体を共鳴させて歌い、大編成のオーケストラと生の声で共演できる実力者である。

岡山唯一のプロテノール歌手として、オペラ公演をはじめ、市民参加のミュージカルにも出演するほか、ルネスホールでのオペラ研修事業を立ち上げるなど、専門的な発声法、歌唱法、演技術の指導を通して、地域文化の向上と後進の育成にあたっている。岡山市の文化芸術の振興に貢献している点を評価するとともに、今後の更なる活躍を期待して本賞を贈る。

■略歴

- 昭和62年3月 岡山県立玉野光南高等学校卒業
- 平成3年3月 国立音楽大学音楽学部声楽科卒業
- 平成9年 オペラ「椿姫」でヨーロッパデビュー(スロベニア国立ルブリアーナ歌劇場)以降、オーストリア、ドイツ、フランス、イギリス、ノルウェー、オランダ、ベルギーなどヨーロッパ各国でオペラ公演に出演
- 平成14年6月 イタリア エウロペア音楽アカデミー プロフェッショナルコース修了
- 平成18年 福武教育文化振興財団 文化奨励賞受賞
- 平成20年 イタリア ブスコルド市立歌劇場と契約
- 平成24年8月 マルセン・スポーツ文化振興財団 文化賞受賞
- 平成29年6月 ルネスアカデミー「アルテ・シェニカ」のオペラ部門主任講師に就任

経 過

本年度で49回目を迎える岡山市文化奨励賞は、岡山市において学術・芸術の分野で中堅的存在として活躍している市民を表彰し、今後一層の研鑽を奨励するため、昭和49年に制定しました。

今回も、市内の関係方面に候補者の推薦をお願いし、多数のご推薦をいただきました。その後、選考委員会の選考、岡山市長の決議を経て、学術部門は福田宏氏、芸術部門は柁木和敬氏を受賞者と決定しました。

受賞者には、本賞（賞状及び賞牌）並びに副賞（賞金）を贈ります。賞牌は大桐國光氏が制作したブロンズ浮彫です。なお、この賞の受賞者は、今年度で学術部門は7団体・43名、芸術部門は4団体・43名となりました。

令和4年11月16日

岡 山 市

岡山市文化奨励賞受賞者一覧

第1回	学術部門	岡山民俗学会	第26回	学術部門	定 兼 学 (歴史学)
	芸術部門	坂 本 明 子 (現代詩)		芸術部門	安 藤 清 和 (現代美術)
第2回	学術部門	長 光 徳 和 (歴史学)	第27回	学術部門	岸 田 芳 朗 (農 学)
	芸術部門	大 月 宗 明 (邦 楽)		芸術部門	浦 田 隆 司 (声 楽)
第3回	学術部門	間 壁 忠 彦 (考古学)	第28回	学術部門	小 倉 俊 郎 (医 学)
	芸術部門	横 田 建 三 (洋 画)		芸術部門	小 浮 田 隆 司 (美術振興)
第4回	学術部門	鶴 藤 鹿 忠 (民俗学)	第29回	学術部門	柴 田 奈 美 (国文学)
	芸術部門	片 山 康 雄 (洋 楽)		芸術部門	山 崎 繁 男 (パノマイ)
第5回	学術部門	岡山民話の会	第30回	学術部門	岡山地方史研究会
	芸術部門	深 田 恒 弘 (陶 芸)		芸術部門	上 月 恵 子 (洋 楽)
第6回	学術部門	県立興陽高等学校農業研究部	第31回	学術部門	上 松 武 彦 (考古学)
	芸術部門	三 沢 浩 二 (現代詩)		芸術部門	佐 藤 武 淑 子 (舞 踊)
第7回	学術部門	加 原 耕 作 (歴史学)	第32回	学術部門	塩 田 澄 子 (微生物学)
	芸術部門	金 谷 哲 郎 (彫 刻)		芸術部門	塩 田 数 彰 彦 (映像芸術)
第8回	学術部門	西 川 宏 (考古学)	第33回	学術部門	近 森 秀 高 (流域水文学)
	芸術部門	星 島 明 郎 (洋 楽)		芸術部門	有 松 啓 介 (ガラス工芸)
第9回	学術部門	太 田 健 一 (歴史学)	第34回	学術部門	戸 上 泉 (医 学)
	芸術部門	成 本 和 子 (童 話)		芸術部門	よ し も と 正 人 (彫 刻)
第10回	学術部門	小 野 道 子 (書 道)	第35回	学術部門	三 村 由 香 里 (ｽﾍﾟｰｽ医学)
	芸術部門	棚 田 国 雄 (洋 楽)		芸術部門	三 南 川 茂 樹 (木工・デザイン)
第11回	学術部門	斎 藤 伸 英 (地理学)	第36回	学術部門	宇 垣 匡 雅 (考古学)
	芸術部門	岡 田 弘 (写 真)		芸術部門	斎 藤 恵 子 (現代詩)
第12回	学術部門	朝 森 弘 要 (歴史学)	第37回	学術部門	木 下 浩 (民俗学)
	芸術部門	菱 川 欣 三 郎 (洋 楽)		芸術部門	(受賞者なし)
第13回	学術部門	南 智 子 (地理学)	第38回	学術部門	青 木 康 嘉 (近代史)
	芸術部門	末 森 智 子 (工 芸)		芸術部門	宮 崎 郁 子 (人形芸術)
第14回	学術部門	後 神 俊 文 (近代史)	第39回	学術部門	和 田 淳 (医 学)
	芸術部門	香 川 昌 久 (洋 画)		芸術部門	岡 山 市 民 合 唱 団 鷺 羽
第15回	学術部門	高 橋 護 (考古学)	第40回	学術部門	山 川 隆 之 (出 版)
	芸術部門	平 田 稔 (商業美術)		芸術部門	青 地 大 輔 (写 真)
第16回	学術部門	臼 井 英 治 (文化史)	第41回	学術部門	林 原 美 術 館 (博物館)
	芸術部門	小 野 敬 子 (洋 舞)		芸術部門	ア ー ト フ ァ ー ム (舞台芸術)
第17回	学術部門	沖 陽 子 (植物学)	第42回	学術部門	内 池 英 樹 (歴史学)
	芸術部門	森 尚 (彫 刻)		芸術部門	小 川 孝 雄 (映 画)
第18回	学術部門	森 元 辰 昭 (近代史)	第43回	学術部門	喜 多 村 真 治 (医 学)
	芸術部門	森 拓 也 (書 道)		芸術部門	池 田 靖 嗣 (パブリックアートの再生)
第19回	学術部門	間 壁 下 勲 (考古学)	第44回	学術部門	岡山大学附属図書館
	芸術部門	森 下 勲 (彫 刻)		芸術部門	石 田 彩 (ガラス工芸)
第20回	学術部門	井 上 啓 治 (国文学)	第45回	学術部門	県立記録資料館古文書解読同好会
	学術部門	高 橋 和 成 (生物学)		芸術部門	出 口 裕 子 (声 楽)
第21回	学術部門	岡 鐵 雄 (植物学)	第46回	学術部門	万 城 昭 (歴史学)
	芸術部門	岡山シノックパント		芸術部門	岡山大学大学院教育学研究科
第22回	学術部門	草 地 功 (鉱物学)		芸術部門	国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座
	芸術部門	藤 沢 陽 一 (演 劇)	第47回	学術部門	森 山 圭 (薬 学)
第23回	学術部門	高 橋 香 代 (ｽﾍﾟｰｽ医学)		芸術部門	近 藤 浩 子 (洋 楽)
	芸術部門	高 松 島 巖 (ガラス工芸)	第48回	学術部門	齋 藤 美 絵 子 (デザイン学)
第24回	学術部門	香 田 康 年 (生物学)		学術部門	中 司 敦 子 (医 学)
	芸術部門	小 林 照 尚 (彫 刻)	第49回	学術部門	福 田 宏 (貝類学)
第25回	学術部門	山 本 力 (心理学)		芸術部門	柁 木 和 敬 (声 楽)
	芸術部門	内 田 智 也 (版 画)			